

## 講演テーマ

「仏像の世界～種類や特徴、調べ方、見せられ方までわかりやすく解説～」

講師：田中<sup>たなか</sup> 義恭<sup>よしやす</sup> 氏

—（以下講演記録）—

## 本題に入る前に…。

ここに阿修羅<sup>あしゅら</sup>と弥勒菩薩<sup>みろくぼさつ</sup>と日光ササ<sup>にっこうぼさつ</sup>と書いてあります。

〈注：ホワイトボードの文字を指す〉

“ササ”とカタカナのように草冠ふたつで“菩薩”を意味する鎌倉時代からある略字で、専門家や僧侶が菩薩と書かずこの略字であらわします。

（仏教で）一番人気の高い3つで、皆様の中で好きな方もいらっしゃるかと思いますが、問題があります。

### <阿修羅像（興福寺）の写真を示しながら>

阿修羅<sup>あしゅら</sup>は仏像の中で最も位が低い仏像で、元来は、インドの仏教が出来る前の古代インドの神の一人で、悪い神です。そのころのインドには神がたくさんいます。資料の中に「天」と書いてあります。これが仏教以前のインドの神様で、（阿修羅は）この中の帝釈天<sup>たいしゃくてん</sup>と戦って負け、がっかりしたところを釈迦如来<sup>しゃかにょらい</sup>が声をかけて、仏教に帰依しなさいといわれ仏教の中に入れて、仏像になりました。興福寺の八部衆<sup>はちぶしゅう</sup>の一人で、脱活乾漆<sup>だっかつかんしつ</sup>という技法でつくられています。

人気の高い理由としては、顔の表情が非常に写実的であること、手が6本ありますが人間としてみると非常に異様な形です。それがふつうの手より少し細くつくられていて、全体としてバランスが大変良く、現代的な見方からして人気があります。

仏像としては一番位の低い仏像です。阿修羅像は、やさしい顔をしています。本来悪神なので鬼の顔をしているのが一般的です。涅槃図<sup>ねはんず</sup>という釈迦如来が亡くなる時の絵があり、その中には必ず阿修羅が出てきて、こういう顔ではなくて鬼の顔をしています。

興福寺の阿修羅のようにやさしい顔をした阿修羅が、他に一点あります。それは法隆寺の五重塔の側面に釈迦涅槃図群像があるのですが、その中の阿修羅が興福寺の阿修羅に似たようなやさしい顔をしています。

## < 彌勒菩薩半跏像（広隆寺）の写真を示しながら >

広隆寺の彌勒菩薩です。

この仏像も人気が高いが問題があります。数十年位前に木の分析をした先生がおられて、その分析によると、朝鮮半島製のアカマツでつくられている。この仏像と大変似た金銅仏が、韓国の中央国立博物館にあり、日本にも一度、奈良の博物館に来たことがあるので、ご覧になった方もおられると思います。大変よく似ています。それと、こういう形の彌勒菩薩は、朝鮮半島の6世紀位の時代に多い。ということは、日本人ではなくて朝鮮半島の人が日本に来てつくったか、あるいは、向こうでつくってそれを持ってきたか、そういう問題がある仏像です。

## < 伝月光菩薩（東大寺）の写真を示しながら >

次は、東大寺の法華堂にある日光菩薩です。

これは塑像で、土でつくっている仏像です。日光菩薩と呼ばれていますが、実は日光菩薩ではありません。衣の下に皮製の甲よろいを着てその上に衣を着ている、こういう形は、元来帝釈天です。日光菩薩と名がついていますが、元々は帝釈天としてつくられたもので、東大寺の法華堂の元々の仏像ではなくて、江戸時代になってから法華堂に移された仏像で、この仏像と対になっている月光菩薩ほんてん（梵天）、あと弁財天と吉祥天の塑像の4体が、おそらく東大寺のどこかのお堂から移された、ということで問題のある仏像です。

最初に3つの仏像は人気がありますが、「問題のある仏像」ということを覚えておいていただきたいのです。

## 本題に入ります。（種類や特徴）

仏像を大きく分けると、「如来にょらい」、「菩薩みょうおう」、「明王てん」、「天」に大きく分かります。

元来仏像という仏の像だけを指すように聞こえますが、現在では仏教に関係している仏像全てを仏像と呼んでいます。この他に資料の裏側に「羅漢らかん」、「俗人ぞくじん」と書いてありますが、十大弟子、十六羅漢、真言八祖、空海や最澄、法然などお坊さんの肖像までも仏像とよんでいます。また6番目の「俗人ゆいまこじ」、維摩居士、聖徳太子の肖像まで仏像とよんでいますけど、これは現代になってから、追加されて仏像としたわけです。

## < 釈迦三尊像（法隆寺金堂）の写真を示しながら >

仏教は、釈迦如来がはじめた宗教で、釈迦如来は実際にこの世に存在した如来で、他の薬師やくしとか阿弥陀如来あみだにょらいは現実に存在していない人物で、釈迦如来だけが唯一存在した如来です。

釈迦如来がいつ頃存在していたかということ、最近ではインドでは考古学が発達して

だいたいの年代が判ります。紀元前 550 から 560 年頃に生まれたのではないかと云われています。実際に 80 歳で亡くなっています。

釈迦如来が生まれた場所は、ヒマラヤの南麓、インドの一番北側に当たります。その釈迦族の王様で父<sup>じょうほんおう</sup> 浄飯王、その奥さんが<sup>まや</sup> 麻耶、この近くの武蔵野大学が学園祭を“摩耶祭”といますが、それはこの釈迦如来のお母さんに因んだ名前です。

釈迦如来の一生を<sup>ぶつでん</sup> 仏伝といいます。ホトケのデンと書いて仏伝いうのですが、それはすべてが正確な釈迦如来の伝記ではなくて半分くらいは作り話で、実際に伝記は古い経典やインドの言い伝えを集めて仏伝は成り立っているのです。その中で実際に釈迦如来は 29 歳の時に出家をします。35 歳の時に悟りを啓いて如来になり、あとの 45 年を、中央インドを中心に仏教の布教に努めています。

そういう釈迦如来の形ですが、頭は<sup>らぼつ</sup> 螺髪といってパンチパーマのような頭をして<sup>けさ</sup> 袈裟をかけた姿につくるのが一般的です。衣のつけかたは、インドに残る仏像をみると<sup>つうけん</sup> 通肩といって両肩を覆うような衣の着方をします。日本の場合ですと、<sup>へんだんうけん</sup> 偏袒右肩という片肌をちらと布がかかる形で、この形が一般的で、通肩の如来像は、釈迦如来以外はそんなに多くありません。有名な鎌倉の大仏は通肩をとっていますが、圧倒的に偏袒右肩が多いです。

また、釈迦如来像というのは、一般的に手の形は<sup>よがんせむい</sup> 与願施無畏の印、右手を上にして左手を下にしてという形のものが多くつくられています。偏袒右肩の形は釈迦如来像だけではなくて、<sup>やくし</sup> 薬師如来、阿弥陀如来などでもそういう形のものが多くつくられています。

ですから、形から釈迦如来というふうに見分けることは大変難しい。平安時代の仏像等で阿弥陀如来といわれていた仏像が、身体の中に書かれた銘文で釈迦如来だったという例もあります。

一応、釈迦如来像は比較的、釈迦如来、阿弥陀如来、薬師如来と三つの如来の中では作例は少ないようです。一番多くつくられているのは、阿弥陀如来です。

### <薬師如来坐像（新薬師寺）の写真を示しながら>

薬師如来は、先ほど手の形をいいましたが、施無畏の下げたほうの手に薬壺を乗せています。それで見分けがつくのですけれど、有名な奈良薬師寺の薬師如来は、薬壺を乗せていません。新薬師寺の薬師如来、天平の末から平安時代の始めころにつくられた仏像ですけれども、その頃になると薬壺を手に乗せるようになります。あとの新しい時代には薬壺を乗せている場合がほとんどです。

ただし、薬壺は手と一緒に彫りだしたものはそう多くはなくて、別々につくって乗せているので無くなる場合が多いです。ですから無くなってしまうと薬師如来か釈迦如来か阿弥陀如来か判らなくなります。

名前の付け方ですが、**釈迦如来**の場合は釈迦族の如来ということで、釈迦如来とか釈

迦牟尼<sup>むに</sup>、というのは「尊敬する（した）聖者」という言葉で呼びます。

薬師如来の場合は、ローマ字で「BHAISAJYAGUR」と呼ぶのですが、薬師如来は、如来となるのに 12 の願をたてて、そのなかに「人々の病を治す」、「長寿を保つようにする」など入っていて、如来の性格から薬師という名で呼ばれるようになります。

### <阿弥陀如来坐像（平等院鳳凰堂）の写真を示しながら>

次に阿弥陀如来です。ローマ字で AMITABHA と書いてあります。だいたい仏教というのは日本では、中国で訳されて日本に来たので、漢訳したとき音<sup>おん</sup>で釈迦如来の場合と同じく、音で漢字にあてたので、阿弥陀は AMITABHA の漢訳です。

この三つの如来が日本の如来像では圧倒的に多いわけで、その中でも阿弥陀如来が一番多いのです。理由はひとつありまして、阿弥陀如来は極楽浄土に住んでいて、平安時代の中頃に『往生要集』<sup>おうじょうようしゅう</sup>、恵信僧都<sup>えしんそうず</sup>という天台宗のお坊さんが書いているのですが、阿弥陀如来は、釈迦如来が亡くなってから丁度 1500 年くらいたった時に末法の世界になる、それが日本では 1500 年頃で、その頃は「阿弥陀如来を信仰し、末法の世界になんとか極楽浄土へいけるようになりたい」ということで、阿弥陀如来の信仰がたいへん盛んになり、平安時代の中ぐらいからたくさん阿弥陀如来がつくられるようになりました。

今映しているのは、平等院の阿弥陀如来です。これは、定朝<sup>じょうちょう</sup>という仏師が、ごく晩年につくられたということがわかっている。日本の仏像の中で、最も仏像らしい仏像ということが云えると思います。

### <阿弥陀三尊像（法隆寺）の写真を示しながら>

次は、白鳳時代の橘夫人念持仏<sup>たちばなふじんねんじぶつ</sup>という比較的小型の仏像です。

鎌倉の大仏と同様に、通肩で両方の肩を覆った衣を着ています。これは一度東京の国立博物館に来たことがあるので、ご覧になった方もあるかと思いますが、法隆寺の宝物館で常時見ることが出来ます。ただし、厨子の中に入っているので照明がうまく当たっていませんので、なかなか見にくいかもしれません。

### <九品阿弥陀如来坐像（浄真寺）の写真を示しながら>

次は、阿弥陀如来の九品往生<sup>くほんおうじょう</sup>というのは、この世に人間がいたときに行いが良い人から悪い人まで 9 段階に分けられて、一番いい人は上品上生<sup>じょうほんじょうしょう</sup>、下品下生<sup>げほんげしょう</sup>まで手の形で九つの段階に分かれています。

しかし、浄瑠璃寺に 9 体の阿弥陀がありますが、9 つの段階に分かれています。

世田谷区浄真寺の九体の阿弥陀は江戸時代の仏像です。これはお寺で見られます。江戸時代の仏像なのでたいした仏像ではありませんが、形としては一度見ておいて良い仏像です。

### <阿弥陀如来坐像（広隆寺）の写真を示しながら>

広隆寺の講堂の本尊でこういう形をしています。これはまだ上品上生とか言われる前の説法印といいます。説法する時の印で阿弥陀如来としてはたいへん珍しい作品です。平安時代の初め9世紀位の仏像です。大変大きな仏像で、いつでも広隆寺へ行けば見ることが出来ます。

### <阿弥陀如来坐像（高德院清浄泉寺）の写真を示しながら>

次は、鎌倉の大仏です。これも通肩で、通肩の例はそんなに多くありません。印の結び方は阿弥陀に限り定印といいます。

余談になりますが、与謝野晶子が「鎌倉や 御仏なれど 釈迦牟尼は 美男におはす 夏木立かな」という有名な和歌を詠んでいるのです。時々、仏教美術の先生で、与謝野晶子のような文化人が阿弥陀如来と釈迦如来と間違えるのは大変おかしなことだ、というようなことを書いている人がいますが、どちらかという仏教美術などを行っている人は、文学の方に弱いわけです。ですから、こんど和歌として釈迦牟尼を阿弥陀如来の場合は、弥陀仏とぐらいにしか読み替えられないのですが、そうしてしまうと、和歌としてはおかしなことになるので、与謝野晶子の場合は、解っていて釈迦牟尼と口当たりの良い和歌にしたわけで、美術史家よりは、与謝野晶子のほうが、別に間違っただけではありませんから、与謝野晶子の為に一応弁解をしておきます。時々その歌をあげて批判する美術史家がいるのでお話ししておきます。

### <盧舎那仏坐像（唐招提寺）の写真を示しながら>

次は、唐招提寺の盧遮那仏です。

盧遮那仏というのは、それほど多くつくられていません。華嚴經けこんきょうと梵網經ほんもうきょうという「お経」をもととしてつくられた、太陽を擬人化した仏像です。東大寺の大仏も盧遮那仏です。有名な中国の竜門ほうせんじの奉先寺の仏像も盧遮那仏。

ただし、盧遮那仏はあまり多くなくて、日本では東大寺と唐招提寺の2例ぐらいしかありません。

### <誕生釈迦仏立像（東大寺）の写真を示しながら>

次は、釈迦如来の誕生仏たんじょうぶつです。

釈迦如来は、生まれて7歩あゆんで「天上天下唯我独尊てんじょうてんがゆいがどくそん」と云われたと、これは仏伝の中でわかるのですけれど…、実際にそんなことは出来るわけがない訳で、後から釈迦如来の威信がそういわせたのでしょう。東大寺の有名な誕生仏で大きさは50cmくらいの大きさです。

## <大日如来像（円成寺）の写真を示しながら>

次は、大日如来です。今までと違うのは、冠をかぶっている、菩薩の形をしている。

大日如来は、盧遮那仏の一種の発展した仏像で、仏像の中の王様という意味から必ず菩薩形につくります。今写っているのは、有名な運慶が若いころにつくった仏像で、奈良の円成寺にあります。

大日如来の場合は、これは忍者のような印を結んでいますが、<sup>ちけんいん</sup>智拳印といいます。大日如来は2種類あって、阿弥陀如来のような印を結んでいるのが<sup>ぜんじょういん</sup>禅定印の大日如来、数から言うと智拳印の大日如来が圧倒的に多い。

大日如来は、平安時代に入ってから空海が唐に渡って戻ってきて、真言宗を唱え真言宗を啓いて以後につくられるようになりました。ただ一体だけ平安の古い時代に大日如来が唐招提寺に残っています。それは、密教の中でも平安時代末より以前の仏教には密教的要素が入っていて<sup>そুমいっ</sup>雑密といっています。

## <千手観音菩薩坐像（葛井寺）の写真を示しながら>

先ほど千手観音が写りましたが、これは大阪にある葛井寺の本尊で、乾湿でできた天平時代の仏像です。実際に千本の手がある仏像です。もうすでに天平時代に密教的要素がある仏像がつくられています。

## <弥勒如来坐像（興福寺）の写真を示しながら>

次は、弥勒如来です。（興福寺）の北円堂に安置されています。有名な<sup>せしんむじやく</sup>世親無著の像がある北円堂です。そこの本尊で運慶とその一派によってつくられた像です。

弥勒菩薩は皆さんよく聞かれると思いますが、釈迦如来が亡くなってから56億7千万年たってこの世に現れて、釈迦如来と同じような活動をするといわれています。それを先取りして如来の形に表して、弥勒如来とする例が鎌倉時代位からいく例があります。

よく知られている例では、<sup>しょうみょうじ</sup>称名寺というお寺が、鎌倉の金沢文庫の近くにありますが、その本尊は弥勒如来の形をとっています。それほど多くないのですが、如来形として弥勒如来がつくられる例が多少あります。

## <観音菩薩立像 <sup>ゆめちがいかんのん</sup>夢違観音（法隆寺）の写真を示しながら>

今度は菩薩です。これは有名な夢違観音です。ユメチガイカンノンと云われますが、正式にはユメチガイカンノンです。法隆寺の宝物館に常時陳列されています。<sup>しょうかんのん</sup>聖観音といわれ、普通「聖」と書くとセイと読みますが、仏教の場合はショウと読みます。これは

理由があります。仏教の言葉は、だいたい我々、音と訓と漢字の読み方が二通りありますが、音の場合にいくつか読み方があって、その中で漢読み、呉読み、唐読み、宋読みと時代によって読み方が少し違います。仏教は、だいたい呉をやってきた形跡が多いので、呉音というのですけれど、呉読みが多いです。

観音菩薩もやはりインドの古い信仰の神です。観音菩薩の特徴は、頭の宝冠の所に化仏<sup>げぶつ</sup>とあって、小さな阿弥陀如来がのっています。

観音菩薩と対になる仏像は勢至菩薩<sup>せいし</sup>です。勢至菩薩の方は冠の仏像の場合とは異なって水瓶<sup>すいびょう</sup>、水差しがついている、それで観音と勢至とわけることができます。

観音菩薩は、水瓶は手に持っているのが多い。観音菩薩は、密教的な菩薩で、いろいろな形をして作られます。

#### <十一面観音菩薩立像（聖林寺）・十一面観音菩薩立像（観音寺）の写真を示しながら>

千手観音も観音菩薩の変り型です。それらを変化観音<sup>へんげかんのん</sup>とよびます。資料にも書いてありますが、十一面観音、千手観音、法華堂の本尊不空絹索観音<sup>ふくうけんじやくかんのん</sup>などです。

十一面観音。奈良県桜井市の聖林寺<sup>しょうりんじ</sup>というお寺にある天平時代の木心乾湿<sup>もくしんかんしつ</sup>です。十一面観音の場合は、頭に 11 の小さな面がついていて、頂上についている仏面も併せて十一面観音といいます。

#### <木造千手観音坐像 木造千手観音立像（三十三間堂）の写真を示しながら>

次、これは三十三間堂の千手観音です。これは先ほどの千手観音と違って、手の数が少なく 42 本ついています。42 本というのは、真ん中で合掌する手を抜くと 40 本です。40 本は、一つの手が 25 の役目を省略して、一般的に 1000 本つくるのは大変なので、千手観音というふうに呼んでいます。観音菩薩のうちでは、千手観音が一番沢山つくられています。というのは、この三十三間堂に 1001 体が立っている、それだけでもう 1000 体ある訳ですから。1000 体の千手観音も、42 の手がつくってあります。これは、殆んどが鎌倉時代につくられたのですが、このうち 120 体ほどが平安時代につくられた千手観音です。なかなか見分けるのは大変なのです。

#### <薬師如来〔薬師三尊像〕（勝常寺）の写真を示しながら>

次、薬師如来です。福島県の勝常寺にある国宝の薬師如来です。

これは先ほど話した薬壺を乗せているのですけれど、薬壺は無くなって、後から作ったものです。足の乗せ方ですが、結跏趺坐<sup>けっかふざ</sup>という足の組み方です。右足が上になって、左足が下になっています。

## < 両脇侍像〔薬師三尊像〕（勝常寺）の写真を示しながら >

次、これは今の薬師如来の両脇侍で、ふつう如来が真ん中にいてその両脇に菩薩がいる、薬師の場合だと薬師三尊と呼んでいます。

阿弥陀如来の場合は、観音菩薩と勢至菩薩が両脇にいて、阿弥陀三尊と呼んでいます。

釈迦如来の場合は、文殊菩薩と普賢菩薩が両脇にいて、釈迦三尊といいます。

唯一、釈迦如来の場合、法隆寺の有名な釈迦三尊は、鞍作止利がつくったという釈迦三尊ですけれど、あれだけは薬王菩薩と薬上菩薩とっています。

## < 不空羂索観世音菩薩像（興福寺）の写真を示しながら >

次、興福寺南円堂の不空羂索観音です。東大寺法華堂の不空羂索観音や広隆寺講堂像が代表的ですが、座った形です。不空羂索観音というのは、藤原氏が信仰した仏像で、藤原氏の関係の寺院に多く不空羂索観音が作られています。

## < 文殊菩薩騎獅像（文殊院）の写真を示しながら >

次、文殊菩薩です。桜井市の文殊院の文殊菩薩です。これは釈迦如来の両脇にいる文殊菩薩と異なって、単独の文殊菩薩です。文殊菩薩の場合には、獅子に乗っています。文殊菩薩は三人寄れば文殊の知恵というように、知恵の神様で、受験生などがお参りしています。

## < 普賢菩薩騎象像（大倉集古館）の写真を示しながら >

次、これは文殊菩薩と対になっている普賢菩薩です。普賢菩薩は、修行の行の菩薩と呼ばれています。この菩薩については、後でまた紹介しますけれど、平安時代後期の仏像で単独像です。

## < 地藏菩薩立像（東大寺）・地藏菩薩立像（藤田美術館）の写真を示しながら >

次は地藏菩薩です。この菩薩は、観音菩薩と同様、多くの人々から信仰され親しまれています。この菩薩の主な役割は、仏滅から弥勒如来が登場するまでの間、「六道」（地獄、餓鬼、畜生、修羅、人間、天上）の輪廻に苦しむ人々を救済することです。その形姿は、他の菩薩と異なり、出家前の釈迦如来の姿ではなく、僧侶、坊さんの姿（剃髪、袈裟）、より親しみ易い形にあらわします。

この菩薩は、平安時代初期から造られていますが、浄土思想が盛んになる平安時代末から多くつくられ、特に近世には一般大衆までその信仰は浸透し、今に至っています。

## ＜不動明王（東寺）の写真を示しながら＞

明王の代表的な仏像で不動明王です。この像をご覧になった方はいらっしゃらないと思うのですが、京都の東寺、教王護国寺の太子堂という弘法大師を祀っているお堂の裏側に安置されていて、殆んど一般の人に見せることのない仏像です。

## ＜不動明王〔五大明王像〕（大覚寺）の写真を示しながら＞

明王というのは、空海と最澄が唐に行ってから日本でつくられるようになって、真言宗と天台宗にしかない仏像です。

不動明王の他に、明王はそれほど多くつくられていません。その中で、<sup>あいぜん</sup>愛染明王というのがありますが、比較的多くつくられています。その中で変わった孔雀明王というのがあります。これは、快慶がつくった有名な孔雀明王が高野山にあります。明王のうちで一番最初につくられるようになった明王で、孔雀という鳥は、インドでは毒蛇を食べてくれるということで、早くからインドでは名前が知られている仏像です。ただし、日本では孔雀明王の作例は殆んどありません。孔雀明王だけは怖い顔ではなく、菩薩の顔をしています。

不動明王の目に注意してください。これは両眼を見開いた不動明王です。古い時代の明王は大体このスタイルが多いわけです。

写真がありませんが、不動明王の場合は、片方の目は細く開けて、片方の目を大きく開けている明王が、大体平安時代の終わりくらいから盛んにつくられるようになりました。<sup>てんちげん</sup>天地眼。

## ＜持国天・多聞天・広目天・増長天〔四天王立像〕（東大寺）の写真を示しながら＞

次は天です。今写っているのが、四天王です。東大寺の<sup>かいだんいん</sup>戒壇院の塑像、土でつくった四天王です。

四天王というのはご存知のように方角が決まっています、東西南北、持国、増長、広目、多聞天の4軀ですけれど、お堂は東西南北に配置するわけにはいかないので、持国天が東南、増長天が西南、広目天が北西、多聞天が北東です。

そのうちの多聞天ですが、毘沙門天といわれ、単独で四天王のうち信仰されることが多い。京都の場合は、鞍馬山が都の鬼門で、毘沙門天が2、3体、平安時代の終わりごろからつくられていますし、東北地方が日本の鬼門にあたるので、岩手県とか宮城県とかあの辺で平安時代の毘沙門天がたくさん作られています。

## ＜十二神将（広隆寺）の写真を示しながら＞

次、十二神将です。

十二神将とは、薬師如来に附属する神将像で薬師十二神将ともいわれています。

それぞれ名前がついていますが、有名な新薬師寺の十二神将は、よくご覧になるとわ

かと思いますが、1体だけ昭和になってからつくられて、11体が元々の天平時代の作品です。新薬師寺のような古い時代には、十二支が付いていない。十二支と十二神将とは、そもそも全く関係がありません。

十二支の考え方は中国の独特の考え方で、それが十二という数だけで十二神将と結びついて、日本では古いところだと平安時代の中ぐらい、11世紀ぐらいにひとつだけ、白山という山があり、白山の麓のお寺に残っています。それは、どんな十二神将かというのと、十二体が残っているわけではなく、十二神将の中の巳ですね、巳（蛇）だけは、別につくって乗せたり、途中で彫ったりすることがないので、蛇のトグロの部分が頭についた十二神将があります。十二支と十二神将というのは、平安時代の終わりぐらいから結びついて、鎌倉時代の十二神将には殆んど干支が付いています。

### <仁王像 阿形（東大寺）の写真を示しながら>

次は、有名な東大寺の仁王です。

仁王というのは、実は最初は1体、1つの像だった、それを執しゅう金剛神こんごうしんという。これが2体に分かれて、境内を守る仏像として、寺院の門の左右に安置される。

ところが余談になりますが、東大寺の仁王は、左右が普通と反対です。阿あうん吽うんといますが、阿の方が上位で吽の方が下で、東大寺の場合は、向かって右側が上位のわけですから、阿がくるのが普通なのですが、吽で左が阿です。これは東大寺独特の並び方で、実は、東大寺の他のお堂の中でもそういう左右が逆な並び方をしているお堂があります。それは、先ほど日光菩薩がある法華堂ですが、梵天帝釈が乾湿でつくられています。梵天帝釈が二つになるので、日光月光というのですが、向かって左側が日光であり梵天で、右側が月光で帝釈で、東大寺の場合は、左右が逆になっている例が多い。大仏の脇の大きな菩薩も逆になっています。それは、天皇が住む内裏が、東大寺から見ると右手にあるので、東大寺にしてみると、天皇のいる側が上位で反対側が下位という考え方で、おそらくそのようになったと思われます。

これは阿形の方ですから、口開いています。東大寺の場合だと向かって左側ですから、上位の方なのですが、反対側になっています。運慶の仁王というのは大変有名で、東大寺以外でも運慶にならって、阿形と吽形が反対になっている寺院もいくつかあります。

### <弘法大師坐像（東寺）の写真を示しながら>

次、空海、弘法大師の像です。空海は密教を日本に伝えた人ですけれど…、密教というのは、大日だいにちきょう経きょうと金剛頂こんごうちようきょう経きょうとふたつの系統の「お経」があって、それから分かれて伝えられていたのですが、恵果けいかという中国のお坊さんが、大日経と金剛頂経をまとめて一本にした。丁度その時代に、空海が遣唐使と共に中国に渡って、恵果というお坊さんから直接まとめられた密教を伝授された。それで日本に持ち帰って真言宗を啓いたわけです。

～～休憩～～

## (テーマに)「調べ方」とありますが…

仏像を調べようとする時に、まず人に聞くのが一番手っ取り早いのですが、そうでなくて、皆さん最近では電子辞書を持っている方が多いと思いますが、まず辞書をひいて、広辞苑を見てください。だいたいのことは**広辞苑クラスの辞書**だと出ています。

広辞苑で多少物足りないときには、**百科辞典**。広辞苑よりは多少詳しく出ていますので、だいたい皆さんが調べたいことはわかります。

更にそれよりもっと詳しいことを調べようと思ったら、ここに『望月**信亨**大辞典』があります。<sup>もちつきしんこう</sup>望月信亨さんという大正大学の学長をされた方がつくられた辞典で、大概の事はこれに出ています。これは、保谷市の頃の中央図書館だった柳沢図書館の開架に置いてあります。大変便利なもので、勤め先の博物館や大学などには必ず置いてある本です。私が、十五年ほど前に柳沢に引っ越してきたのですが、武蔵野市の中央図書館にはあり、柳沢図書館でも何とか買って欲しかったと申し込んだところ、半年もたたないうちに買ってくれました。あそこだけが唯一この近くではある。あとは武蔵野大学が仏教関係の大学ですから、あそこはもちろん置いてあります。小平とか国分寺とか、この辺の西の方の市では殆んど置いていませんから、西東京市にお住まいの方は、田無の方にいるとちょっと不便かもしれませんが、柳沢まで。

その隣に『**目で見る仏像**』があります。これは私と、早稲田大学の星山晋也先生と二人で作った辞典でして、仏教辞典というのはなかなか文章が難しく、たとえば仏像のことを英語に翻訳しようと思うと、日本語をまず分かり易く一回翻訳しないと英語に訳せない。で、なるべく分かり易い言葉で。たまたま私も星山先生も写真をたくさん持っていましたので、写真を見ながら解説がついて、そういう本を出しました。これはもう絶版になっているので本屋に行ってもないと思います。手元に置いておくと大変便利な本です。改訂版の中に入っている仏像は、江戸時代のものとかで名品は有りませんが、解説だけはしっかり書いてあります。

(中央図書館地域・行政資料室所蔵資料『目で見る仏像』を会場内で回覧)

## 調べ方の次に「見せられ方」とあります。

変な題が付けていますが、仏像には、なかなか見せてくれない仏像があります。それは「**秘仏**」といいます。実際に誰も見たことのない仏像があつて、それは、浅草寺の**観音菩薩**、長野の善光寺の**阿弥陀如来**、東大寺二月堂の**十一面観音**とか、これは誰も見たことがありません。実際にあるかないかも分からないといえれば分からないかもしれません。

普通、「秘仏」というと、何年かに1回開帳といって、厨子の中の垂れている布を開く

こと、開帳といいますけれど、たとえば阿弥陀如来に関係すると48年に1回、あるいは観音菩薩でいいますと33年に1回、33年の中間で17年に1回とか、そのような決まりがありますが、何で秘仏になったのかはよくわかりません。勿体つけて、お寺が秘仏としているものがほとんどだと思います。

たとえば、成田山の成田不動も、最近では写真を本に掲載することも許可しない。成田不動の場合には、鎌倉時代につくられた不動明王が京都の神護寺にあって、そこから移されたということで、専門家が調べて鎌倉時代の不動明王だということが分かっています。

因みに、観心寺の如意輪観音、大阪の南の方のお寺ですが一年に1回、4月の17日18日の2日間開帳して見せてくれます。「秘仏」だっただけに、たいへん色が鮮やかに残っているので、不便な場所ですけれど一見の価値はあると思います。

仏像の縁日というのがあって開帳します。ひと月の1日から30日までの間に如来や菩薩とかを当てて、何々如来の縁日、何々菩薩の縁日とか、たとえば薬師如来は8日、観音菩薩は18日、観心寺の如意輪観音も18日とその前日の二日にしていますけれど、縁日だけに見せてくれる仏像がいます。先ほど、葛井寺の千手観音の1000本手がある仏像、藤井寺という昔近鉄バッファローズの球場があったところにある葛井寺です。毎月18日に開帳になって見せてくれます。

その他、最近では観光シーズンにあわせて開帳する仏像が多くなっています。有名な法隆寺の夢殿の観音菩薩なども、春と秋に何日間か開帳して見せてくれます。最近では、浄瑠璃寺のきちじょうてん吉祥天も「秘仏」にして、春と秋の観光シーズンにしか見せないようになっています。

そういう限られた日に見せられる仏像があるので、調べれば何日に開帳するということとはわかりますので、図版等でご覧になって、是非見たいということがあれば、開帳の日にあわせて行けば見ることが出来ます。

先ほどの成田不動と同様になかなか見せないという仏像もあります。それこそ60年に1回とかそういう制限がついています。

余談になりますけれど、善光寺の阿弥陀如来、あるかないか分からないのですが、本物の代わりに「まえだちぶつ前立仏」というのがあって、それは鎌倉時代につくられているのですが、その仏像も6年に1度しか見せない。だから「秘仏」の前に立った「秘仏」です。

ただ善光寺の場合は、善光寺の阿弥陀三尊という形の仏像が120、130体は全国にあります。そのうちほとんどが鎌倉時代につくられたものですから、あるいは鎌倉時代までには善光寺は本尊を見せてくれたのかもしれませんが。そのへんの記録は残っていません。

いろいろな「秘仏」があるので、図版等を見てご覧になりたかったら調べれば、いつ行けば見られるというのが分かります。

## 最後になりますけれど…

西東京市からそう離れていなくて、東京都内に在るお薦めの仏像を紹介します。

### 調布市の**深大寺**

#### <釈迦如来倚像（深大寺）の写真を示しながら>

調布市の深大寺です。ご覧になった方もいらっしゃると思いますが、一昨年、国宝に指定されて、たいへん変わった形の仏像です。腰掛けている仏像で、深大寺の記録によると、「立像にあらず坐像にあらず」といわれて、今は「<sup>いそう</sup>倚像」と呼ばれます。これは明治以降につけられた言葉です。

#### 「<sup>いそう</sup>倚像」について<石造浮彫伝薬師三尊像（石位寺）の写真を示しながら>

奈良県桜井市、石位寺にある白鳳時代の仏像で、石に彫られた仏像です。この仏像の他に小さな金銅仏で、2例ほどこういう形をした仏像があるのですが、数十年前に飛鳥で<sup>せんぶつ</sup>埴仏というのがたくさん出土したことがあります。それも同じ白鳳時代の仏像ですが、この本尊と同じ形をしています。用途は土でつくっている仏像ですが、堂内の<sup>しゆみだん</sup>須弥壇などに貼り付けて、堂内を飾った仏像です。それがたくさん出てきたので、白鳳時代の独特の座り方です。他の時代にはほとんどこういう仏像はありません。

### 東京の**大倉集古館**

#### <普賢菩薩騎象像（大倉集古館）の写真を示しながら>

もうひとつお薦めです。先ほどご覧にいれましたが、あの普賢菩薩が東京の大倉集古館という美術館にあります。大倉集古館というのは、ホテルオークラの方が今は有名ですが、ホテルオークラの裏にあって、地下鉄銀座線の虎ノ門駅から徒歩10分位の所です。新潟県の財閥が集めたいろいろな美術品を持っている小さな美術館です。平安時代のたいへんきれいな品の良い仏像で、是非、一見の価値があるのでいらしたら良いと思います。大倉財閥というのは、新潟県出身の軍事産業で大金持ちになった財閥で、日清戦争とか日露戦争で武器をたくさんつくって、いろいろ美術品を集めたのですが、系統だって集めたわけではないので、絵巻物とか、横山大観の「夜桜屏風」だとか種々雑多なものがありますけれど、けっこう見栄えのする美術館なので行ったことがない方、一度いらしたらよいと思います。

### **東京国立博物館**

三番目にもうひとつ、東京国立博物館（法隆寺宝物館）です。

皆さんは、だいたい特別展の時にしか行かないので、普段展示してあるものはあまり

ご覧になっていないと思います。博物館は、普段展示するような作品に良いものがあります。東京国立博物館は、門から入ると正面に**本館**があり、向かって右側に**東洋館**、左側に**表慶館**、その表慶館の裏側に**法隆寺宝物館**があります。小さな建物で3階建てです。

法隆寺から明治初期に、当時の国に献納した宝物が展示されています。なかでも、「**四十八体仏**」という言葉をお聞きになったことがあるかと思いますが、飛鳥時代から天平時代の始め位の間金の銅仏が、53体位展示されています。中には年号が干支で判るものがあるが、一番古いものは、<sup>へいいんねん</sup>丙寅年606年、<sup>しんがいねん</sup>辛亥年648年くらいになりますか…、その2体は、銘文のある仏像なので、外から、展示ケースの中にあっても見ることが出来ますので、古い時代の銘文が…、タガネで字を削って書いているのです。そういう例がありますので、是非ご覧になってください。

**法隆寺宝物館**というのは、明治の始めに「**廃仏毀釈**」というのがあって、お寺が衰退して、法隆寺といえは、今、奈良では東大寺に次ぐ観光寺院ですけれど、当時はお堂が壊れたり、寺を経営するのが大変でしたので、国に宝物を買ってもらい、一応献納という形で、国に金銅仏や有名な聖徳太子像の絵などもその時に献納されました。

聖徳太子像は、御物として天皇家の方に入っています。その他の仏像、屏風、伎楽のお面とかが、法隆寺宝物館にありますので、ご覧になれると思います。

一度ゆっくり時間をかけて、特別展を見るような感じでご覧になると良いと思います。以前は、法隆寺宝物館は木曜日しか開いていなかったのですが、今は月曜日の休館日以外いつも開いていますのでご覧になれる。

因みに、法隆寺が献納した見返りとして、当時国から5万円が下賜されたと記録が残っています。当時の5万円ですから、今の何十億かのお金だろうと思うのですが、そういう経緯のある仏像なので、是非いらしてください。

この三ヶ所は、ほとんどの方はいらしたことがないと思いますが、特に**深大寺**は、三鷹や吉祥寺からバスが出ていますから手軽に行けます。**深大寺**は、数十年前から拝観料を取らず無料で見せていたのですが、国宝になってあまりに大勢拝観者があって、パンフレットを作ってお賽銭箱を置いて、お賽銭箱があると我々は大抵百円玉しか入れませんよね。百円でパンフレットは少し無理なのではと置いていたら、去年の9月から、(拝観料を)300円に値上げして、でも、300円の価値は十分にありますので、ここからは1時間以内で行けますので、是非いらしてください。

深大寺の隣に神代植物公園があってその方が有名になっていますが、神代植物公園は、神の代と書いていますけれど、日本書紀や古事記とは関係なくて、東京都で勝手に神代とつけたものです。お寺の名前、地名は、あの辺は深大寺<sup>ちょう</sup>町ですから、”深大”でもよかったです。植物公園の土地は、元々深大寺の境内で、あの周辺は深大寺町という

町名も残っています。神代植物公園には、神代<sup>かみよ</sup>の植物が植えてあるわけではありません。奈良ですと万葉植物園には、万葉集に出てくる植物が植えてありますが、神代と全く関係のない植物公園です。そのかわり、薔薇の季節には薔薇を見に行くというような意味では良い植物公園です。神代とは関係のないというつもりでご覧になってください。

### この辺で終わりにいたしますが

ご質問があればおっしゃってください。

《質疑応答》

Q. 「数十年前に飛鳥で埴<sup>せんぶつ</sup>仏というのがたくさん出土した…」というセンブツのセンの字について。

A. 土でつくっているため、石偏ではなくて土偏です。